

認定特定非営利活動法人  
れんぎ  
日本雲南聯誼協会  
【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町21-13 1階  
Tel:03-5206-5260 Fax:03-5206-5261  
Email:yunnan@jyfa.org URL:<http://www.jyfa.org/>  
【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路289号集大広場2011室  
Tel:+86-871-3311468 Fax:+86-871-3320658  
編集・発行人 初鹿野惠蘭  
印刷協力 (株)日経印刷 (株)技術評論社 デザイン ARTY STUDIO



Japan Yunnan  
Friendship Association

# 彩雲の南

第37号

会報

発行日 2011年(平成23年)5月15日



「これまでの教育支援が、国を超えた確かな『心のきずな』に育っていることを実感しました」—東日本大震災直後の3月末から雲南省を訪問していた初鹿野理事長は行く先々で「日本頑張れ!」の大きな激励を受けました。当初の目的は、JICA草の根技術協力事業「100万回の手洗いプロジェクト」の2010年末の期間満了を

受けた対象小学校の実施状況などの視察でした。しかし、未曾有の大震災直後から協会に寄せられた多くの義援金やお見舞い・激励メッセージに対し急きょ関係先に謝意を伝える形脚も。「これまでの恩返しに、今度は我々が日本を支援する番です」との励ましに胸が熱くなりました。

## 直後から協会に届く義援金やお見舞い 昆明支部へは一般市民も続々

大震災の起きた翌12日、いち早く雲南省海外聯誼協会会长の黄毅氏から電話があり、励ましの言葉とともに、「わずかな額ですが、少しでも被災者の皆さんのお役に立てれば」と10万元のご寄付を申し出くださいました。また、雲南省僑務弁公室主任・雲南省海外交流協会会长の楊光民氏からも、亡くなられた方々への深い哀悼や被災者に対する心痛が綴られたお見舞い状が届きました。お見舞い状は

「必ず自然災害に打ち勝つと信じております。一刻も早く郷里を復興できますように!」と力強い言葉で結ばれています。その後、協会へ



▲雲南省帰国華僑聯合会主席の李嶸氏は、原発事故による風評に関係なく予定通り9月に日本を訪問することを明らかにしました

日本の支援を優先させてほしい。また、どのような支援が必要か言って欲しい」と述べたのに対し、初鹿野理事長は「暖かいそのお気持ちだけでもありがたいことです。日本の皆さんに伝えます」と感謝の意を明らかにしました。

午後からは昆明市帰国華僑聯合会主席の周凡氏に会見。周氏は「災難に決して負けない強い国・日本を信じています。支援していただいた老村小学校と天真小学校の子ども達からメッセージが届いています」と述べ、時期を見ての日本訪問の意向を明らかにしました。翌29日に会見した雲南省帰国華僑聯合会主席の李嶸氏も、当初予定の9月に日本を訪問する計画に変更しないことを重ねて強調しました。

▲雲南省海外聯誼協会会长の黄毅氏との会見では、いち早い寄付金に感謝の意を伝えました。また、持参した東日本大震災のVTRを見ながら地震時の様子を説明しました。

はお見舞いの電話や義援金、昆明支部へ多くの市民などから義援金が届きました。

こうした多くの善意への感謝を胸に3月28日、初鹿野理事長は海外聯誼協会・黄毅会長と会見。黄氏は「これまで

日本は様々なルートで中国を援助してくれました。今すぐにでも被災地に行って助けてあげたい気持ちで一杯です。今は雲南への支援より日本へお見舞いにはあなたは独りではありません。私はずっとあなたを思い、あなたのために祈っています」やり直しましょう。日本の方よ、頑張れ!など日本からの支援への感謝の思いが重なって綴られていました。

31日には平田昆明特命支部長や会員の林氏、理事長の姉の丁美蘭氏、雲南大学や東大の学生など総勢8名で建水県の白雲小学校を訪問。子どもたちから「日本の友人たちへ、悲しみを忘れ、困難を乗り越え、明るい未来を造りましょう!」「悲しまないで、ずっと応援しています!」などの寄せ書きをいただきました。

思えば雲南省麗江での地震を契機に始まった草の根教育支援活動は15年後、史上稀に見る大震災という形で日本に降りかかり、今度は雲南省からも寄付が寄せられました。協会支部には昆明の一般市民の皆さんからも寄付が寄せられました。温かい支援を頂いている現状に初鹿野理事長は「これまで多くの日本の方々に支えられて協会の活動が可能になりましたが、今回の大震災で今度は支援を頂くという形で現れました。日本と雲南との間に眞の「心のきずな」が育つことが何より嬉しい」と、これまでの協会活動の来し方行く末に自信を覚え、決意を新たにした訪問でもありました。



▲協会支部には昆明の一般市民の皆さんからも寄付が寄せられました。温かい支援を頂いている現状に初鹿野理事長は「これまで多くの日本の方々に支えられて協会の活動が可能になりましたが、今回の大震災で今度は支援を頂くという形で現れました。日本と雲南との間に眞の「心のきずな」が育つことが何より嬉しい」と、これまでの協会活動の来し方行く末に自信を覚え、決意を新たにした訪問でもありました。

## 2010年12月完了「JICA草の根技術協力事業」今後につながる大きな成果

### 総括「100万回の手洗いプロジェクト」 食事前とトイレ後の手洗い「習慣化」が大幅増



2009年度は、対象小学校の衛生施設の整備と教師研修が主な活動だった。2010年度は、それぞれの学校で行う衛生教育授業や生活指導、子供たちの衛生的な態度・行動がどのように変化していくのか、関係者かどのように関与したのか、また施設の維持管理を含めた持続性の方策について、プロジェクト活動の中で追跡していく。

白雲小学校では給水タンクと手洗い場、太陽熱温水システム・シャワー室が完成し、活用されている。調査では、食事前とトイレ後の手洗いを「習慣化」したレベルの子どもたちが10-30%増加した。藤原小学校では給水タンクと手洗い場、太陽熱温水システム・シャワー棟、バイオガス施設が完成、学校主導のもと利用されており、食事前とトイレ後の手洗いを「習慣化」した子どもたちが17-49%増加した。両校とも教師・子どもたちが自他ともに衛生意識が向上したと認めている。遠福中心小学校と四河中心小学校ではプロジェクトによる施設整備は行われていないが、手洗いや寄生虫予防への知識はやはりプロジェクト前と比較して向上した。またペーパーサポートやパネルシアターを活用する教育アプローチは、どれもある程度支持された。

以上のことから、プロジェクトで実施した教師研修、衛生施設の改善、体験型衛生教育によって、各小学校の健康・環境衛生に対する対応能力がある程度高まったと評価した。また、雲南少数民族地域の課題である衛生環境の悪化に対して、学校から始める衛生行動の啓発アプローチとして実施したプロジェクトは合理的であったと考える。対象地域が建水県と福貴県の2つに分かれていることやアクセスの悪さ等の問題があったものの、研修と施設建設のタイミングや品質、規模は適性であった。

#### 経験の広報と共有化 働きかけで広がる可能性

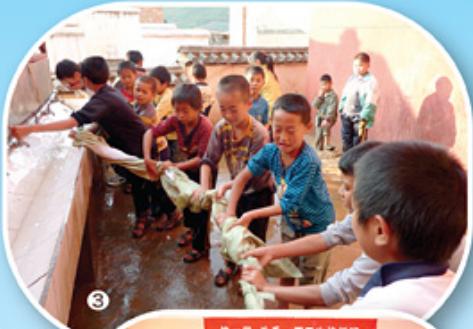
ただ、プロジェクトによるインパクトはそれぞれの各学校の条件が異なることもあります。限定的な範囲に留まっている。プロジェクトの経験の広報と共有化を関係者に働きかけることで、対象校以外にも広がる可能性は残っています。プロジェクト関係者内では成果を持続させたい意向があるものの、支援的な体制が整っていないため、課題が多い。

プロジェクト実施側からの提言として、協会はこれまでプロジェクトが蓄積した衛生教育教材や各学校が作成したペーパーサポートなどの事例を広く公開することとも、今後の学校建設支援においても衛生施設面からの施設改善の検討、衛生教育教材・方法の共有などを通じて、経験を活用してほしい、ということを第1に掲げておきたい。

なお、写真がたっぷり入った年度ごとの活動報告書をPDFで作成しました。興味のある方は協会にお問い合わせください。

- ①生まれて初めてペーパーサポートを作ったよ!(2009年8月白雲小学校)
- ②食べたらちゃんと手を洗うよ!(2010年9月藤原小学校)
- ③プロジェクトで設置した手洗い場で、カーテンの大洗濯です。(2010年11月白雲小学校)
- ④3日間の第2回衛生授業研修に参加した支援小学校の先生方と現地ボランティアの皆さん。

修了証をもらってみんな笑顔!(2010年2月開催)



#### 「ここにちはCSR」

#### 一協会を長年支えてくださっている 法人会員企業からのメッセージ

### 「教育」では私の事業とも底通 そのパワーで頑張って!

#### ■第2回 高尾幼稚園 小山靖昭園長

「愛情を注いで育ててきた高尾幼稚園は私の三番目の子どもです」と幼児教育の使命感に言及する小山園長。36年前、高校の先生から幼稚園を創立するという熱血教師だった。

初鹿野理事長の長男・裕介君をどこかの幼稚園に入園させようかと思案の末に高尾幼稚園が意中にな。しかし、その年の入園は既に終了していた。普段ならここで諦めるが、もちろんの粘りで電話口で懇願攻勢。ついに裕介君の友達と2人で異例の入園許可を6月に勝ち取るという「快挙」を成し遂げている。協会発足以前のことである。

小山靖昭園長は協会顧問の小山久子さんとは親戚関係にあり、雲南省や教育支援活動の話を聞かれており次第に信心が強くなっていた。そんな折、理事長一行と雲南省に行く機会に恵まれ、現地の幼稚園や雲南大学などを視察「大変勉強になりました」と、当初の心配が杞憂に終わり、強く印象に残ったという。その後3回も訪問し、交流を深めた。2002年からは法人会員として、協会の活動を応援している。

そもそも小山園長は大学を卒業後、某私立大学付属中学高等学校の教師として社会人の一步を踏むも、数年後に学内に陰湿な問題児が出現、クラスからも停学者や退学者が出てしまった。



徹底した追跡調査の末に、「どの子も幼児期の育ち方や環境が良くなくそれが思春期に爆発する」と分析。幼児期からの教育でなければ人格形成は間に合わないと判断。周囲の心配をよそに両親も説得。当時、約1000坪の自家所有の葡萄園だった今の土地に幼稚園を開園を創立した熱血教師だったので。

少子高齢社会の到来で、全国の幼稚園は淘汰の波にさらされているが、高尾幼稚園の来年の入園者は既に決定。2年後の予約を受け付けているという。現在470名が在園、教職員33名で毎月発行する「INFORMATION」(A4判約70頁)は日本一の園だよりと称されるほど内容が充実している。数々のドラマは自著「運かなる幼稚園」に詳しい。

「協会の活動は『教育』という点で私の事業とも底通しています。草の根教育支援活動を続ける協会をこれからも応援して行きたい。理事長、そのパワーでは是非頑張ってください」とエールを送る。



#### 【幼稚園概要】

1975年4月1日 高尾幼稚園開園。1990年3月学校法人平成学園設立。1998年に国内幼稚園で初の全天候型の園庭ドーム(UVカット)を建設。  
住所 東京都八王子市東浅川町けやき通り515-5  
電話:042-664-5755 FAX:042-664-5756  
<http://www.takao.ed.jp/>

※CSR=Corporate Social Responsibility(企業の社会的責任):利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもつこと

余韻続く中…

### 2010年度最後の 役員・顧問会開催!



2011年3月18日(金)2010年度最後の役員・顧問会が開催され、震災から1週間の交通事情も不安定な中、大勢の役員・顧問が東京本部に集結しました。会議の大部分は、大震災への支援方法についての議論に割かれました。

今回の役員・顧問会では、雲南における募金状況の報告や募金の具体的な運用方法について活発な話し合いが行われました。協会の原点はあくまで教育支援であり、募金は頂戴した全額を子どもたちと小学校の支援のために使うこと。現地状況が落ち着くのを待ち、直接現地の子どもたちの状況を確認すること、支援をきっかけに雲南と日本の更なる関係を築いていくなどの方針を確認しましたが、具体的な時期、受入窓口、支援方法などは、現地の状況と照らし合わせながら今後検討していくこととなりました。

今までに役員・顧問の皆さんから多岐に渡るご提案・ご意見を頂戴し、活発な意見交換が行われています。役員の中には震災直後から実際に被災地に入り医療や教育の分野で活躍している方もいます。協会自体も、雲南麗江の大地震をきっかけに設立された経緯があり、これまでの支援活動の経験やノウハウを活かして、微力ながら東日本大震災復興のお手伝いをしていきたいと思います。

#### 【出席者(敬称略・順不同)】

初鹿野惠蘭理事長、遠藤功、桂正徳、大鷲修平、初鹿野薫、唐澤英安(以上理事)、村松健児、佃純誠(以上監事)、岩間辰志、片岡巖、新井淳一、小澤文穂、東郷浩(以上顧問)、滝沢崇、林則幸、山田美葉、高橋瑞季(以上事務局)



## 日本と雲南 子どもたちの夢を育む小さな壁新聞プロジェクト 日本版壁新聞第2号が完成!

版第二号「泊江市立和泉小学校」の壁新聞が完成致しました。和泉小学校は、協会支援第19校目「老木壠小学校」と、フレンドシップ提携を結んでおり、その関係で、プロジェクトに参加していただきました。壁新聞は、多くの翻訳・作成ボランティアの手を経て、3月上旬には完成していましたが、先日の大震災の影響により、印刷が遅れています。この度、4月12日に印刷会社に入稿し、現在刷りあがりを待っています。印刷後は、雲南省に渡航予定の会員さんに雲南支部まで運んでもらう予定です。その後は、現地ボランティアの手を借り、直接、フレンドシップ校へと届けてもらう考えです。



▲日本版壁新聞第2号が出来上がりました！

老木壠小学校の子どもたちにもすでに壁新聞編集キット(文房具一式)を寄贈しており、昨年には、最初の壁新聞を作成してくれました。残念ながらその第一号は雲南省内での郵送事故により行方不明になってしまったのですが、老木壠小学校はネット環境がある程度整っているので、今後はネットでのやり取りも視野に入れ、安定した交流方法を検討してゆく予定です。

また、これまでに完成した小さな壁新聞を、会員・ボランティアの皆様に気軽にご覧いただけるよう、webコンテンツを鋭意準備中です。もうしばらくお時間をいただきますが、子どもたちの力作、ぜひご期待ください！



▲壁新聞はたくさんのボランティアさんの手を経て完成されます

手作りの壁新聞を介して、日雲の子どもたちが心と心の交流する「小さな壁新聞プロジェクト」この度待ちに待った日本

版第二号「泊江市立和泉小学校」の壁新聞が完成致しました。和泉小学校は、協会支援第19校目「老木壠小学校」と、フレンドシップ提携を結んでおり、その関係で、プロジェクトに参加していただきました。壁新聞は、多くの翻訳・作成ボランティアの手を経て、3月上旬には完成していましたが、先日の大震災の影響により、印刷が遅れています。この度、4月12日に印刷会社に入稿し、現在刷りあがりを待っています。印刷後は、雲南省に渡航予定の会員さんに雲南支部まで運んでもらう予定です。その後は、現地ボランティアの手を借り、直接、フレンドシップ校へと届けてもらう考えです。

老木壠小学校の子どもたちにもすでに壁新聞編集キット(文房具一式)を寄贈しており、昨年には、最初の壁新聞を作成してくれました。残念ながらその第一号は雲南省内での郵送事故により行方不明になってしまったのですが、老木壠小学校はネット環境がある程度整っているので、今後はネットでのやり取りも視野に入れ、安定した交流方法を検討してゆく予定です。

また、これまでに完成した小さな壁新聞を、会員・ボランティアの皆様に気軽にご覧いただけるよう、webコンテンツを鋭意準備中です。もうしばらくお時間をいただきますが、子どもたちの力作、ぜひご期待ください！

プロジェクトでは、編集・翻訳などのボランティアを常時募集中！どなたでもご参加頂けますので、お気軽にお問い合わせください！  
TEL 03-5206-5260  
(平日10時から18時)  
volunteer@jyfa.org

## 雲南を彩る25の星たち 連載第17回 ヤオ族

ヤオ族は中国に約215万人おり、そのうち19万人が雲南で暮らしています。雲南へ入ったのは元の時代で比較的遅かったため、現地の漢族の影響を受けて道教を信仰するようになりました。ヤオ族の道教はやがて独自の原始宗教と融合し、天と人間と祖先を一体するヤオ族道教に発展しました。その社会は特徴的な長老制度を持つていて、集落ごとに選挙で長老を選び、交渉ごとや調停の役目を果たします。

ヤオ族は、他の民族同様歌を愛し、美しい民族衣装も持っていますが、特筆すべきはその始祖伝説です。太古の昔、中国の皇帝が長年征服できなかった宿敵を倒した者に娘を与えると布告したところ、それを聞いた榮鶴という犬が早速その首を取って皇帝に献上しました。皇帝は約束にそむくわめゆかず、娘を榮鶴に与え、榮鶴は娘と共に6人の男子と6人の女子をなしました。ヤオ族の言い伝えでは、その12人々こそ民族の祖先であるといいます。日本の皆さんにとっては、何となく馴染みのあるお話なのではないでしょうか。実は、美は滻澤馬琴はこの榮鶴伝説にヒントを得て「南総里見八犬伝」を書いたと言われています。協会「50の小学校プロジェクト」の記念すべき支援第1校目もヤオ族の学校でしたが、日本とヤオ族の浅からぬご縁を感じますね。(雲南支部)



中国郵政  
CHINA  
(80分)  
2011-5-15 雲南

マメ知識 中国では人口5000以上を「族」(ヤオ族、イ族など)、5000未満を「人」(モソ人など)と呼びます。

## 平田特命支部長インタビュー！

### 墨江の市場で出会った“肝っ玉があさん”

墨江(ムジャン)は、昆明から南へおよそ300km、雲南省を南北に分ける哀老(アイラオ)山系の東の山裾に位置する、なんの変哲もない小さな街だった。1月半ば、西双版納(シーサンパンナ)の景洪(ジンホン)から紅河(ホンヘ)自治州の元陽(イエンヤン)の棚田へ向かう途中、この街の近郊にも「綺麗な棚田」があると聞いたとバッドさんが言うので立ち寄った。

バスターーミナルを出た途端、いろいろな人が次から次に声をかけてくる。「どこへ行くんだ？」「宿はあるのか？」などともお節介な、否、親切な人たちである。そこで「綺麗な棚田」の所在を尋ねてみると、異口同音に「棚田は元陽だ。バスで石屏(シビン)へ行け」と言う。「この辺に“綺麗な棚田”など聞いたことがない」とも。「綺麗な棚田」の情報はガセネタだったようだ。街の様子を尋ねると、北回帰線公園があるという。墨江一帯は古くから普洱茶の産地だが、「北回帰線が通る街」を新たに目玉にしているらしい。

北回帰線公園のすぐそばに市場があった。どこの街でも市場はたくさんの人で活気に溢れている。入り口を入れるとすぐに、狭い通路を挟んで果物屋が軒を連ね、リンゴやパイナップル、バナナ、イチゴ、柑橘類が山をなして売られていた。通路の四方八方から陽気な声が飛んでくる。いちばん大きな声の持ち主が李志秀(リジンショウ)さんだった。「どこから来たの？」と聞くのでボーランドと日本と答えると、「ボーランドってどこへえ、ヨーロッパかい。えらい遠くから来たんだねえ」と目を丸くしていた。結局、“肝っ玉かあさん”的な李さんに圧倒されて、1公升(約500g)5元の橘子(ジュズ:蜜柑によく似た柑橘)を2公升(20個ほど)も買うことになってしまい、翌日、元陽へ行くバスの中でもひたすら食べ続けた。

◆“肝っ玉かあさん”こと李志秀さん

李志秀さん  
45歳／家族5人／職業: 果物販売業  
いちばん大切なものはなに？: 家族と商売  
夢はありますか？: 格別ない  
現在、幸福ですか？: もちろん！  
いちばん尊敬する人は？: 両親(父80歳、母75歳)  
日本を知っていますか？: 日本は好きですか？  
よく知らないから好きも悪いもない。

現在昆明に留学中の会員・平田栄一さんが特命支部長として、皆さんに雲南の今をお伝えします！

協会は学生団体の国際交流を応援しています

## 大学生サークル、雲南少数民族の子どもたちと笑顔はじけるスポーツ交流！

立命館アジア太平洋大学「笑-xiao-」が2年ぶりに白雲小訪問

2011年2月25日、協会支援第11校目「白雲小学校」で大学生団体によるスポーツ交流が行われました。同団体による白雲小学校での交流活動は2009年の運動会開催に続いて二度目。二度のスポーツ交流を企画・実施した立命館アジア太平洋大学「笑-xiao-」の庄司智哉さんのレポートをご紹介します。



2011年2月22日より約1週間、私たち学生団体「笑-xiao-」は中国雲南省に滞在しました。今回の滞在の目的は、日本・雲南聯誼協会の支援校の一つである白雲小学校を訪問するためです。



道に迷いながらも午後2時ごろ小学校に到着し、30分ほどアイスブレイキングをした後、子供たちと一緒にドッジボールをしました。白雲小学校には体育の授業があるものの、専門の体育教師がおらず、体育の授業は実質的に子供たちが自由にボールを追つかけているという状況です。そこで、少しでも新しい経験をしてもらおうと、今回ドッジボールを子供たちに紹介しました。馴染みのない競技にすぐにルールを理解することはできなかった子どもたちも、次第に要領を理解し始め、夢中になってボールを投げていました。

寮に住んでいる子どもたちが帰宅したあとは、残った子どもたちの夢を絵や文章にして表していました。どんな作品ができるのだろうと楽しみにしていたのですが、できあがった作品を見て私たちは驚きを隠せませんでした。「先生になる」や「お医者さんになる」などの私たちの予想を裏切り、ほとんどの子どもたちが「日本に行きたい」や「笑-xiao-にまた白雲村に遊びに来てほしい」と書いていました。

企画段階では、たった数時間の交流で果たして意味はあるのかと必死に考えていました。たしかにスポーツすることは貧困や教育環境の根本的な解決にはむすび付かないかもしれません。しかし、今回の交流で子どもたちに外国や日本に興味をもつてもらうことができたほか、数時間ではありましたが心からスポーツを楽しんでもらえたのではないかと思います。今回の旅は多くの人々のサポートによって成功を収めることができました。日本・雲南聯誼協会さんをはじめ、白雲小学校の先生方、カメラマンをしてくれた旅人達(クリスとロビン)、通訳をしてくれた余謙さんと運転手をしてくれたお父さん、道を教えてくれた方々。そして、白雲の子どもたち。また近いうちにみんなの笑顔を見に行きます。皆さん本当にありがとうございました。謝謝。



笑-xiao-・立命館アジア太平洋大学(大分県別府市)の学生で構成されている学生団体。「スポーツ×教育」をテーマに活動し、雲南省の小学校で運動会やスポーツ指導などを実施している。今回で3度目の雲南渡航。

## 大宮支部が盛大に春節パーティー

パーティーにはボランティアやご来賓も含め、なんと総勢97名が参加、ボランティア手作りの料理や余興を楽しみました。

13時に始まったパーティーは、寺内明子大宮支部長の挨拶からスタート。続いて、東京からかけつけた初鹿野理事長が参加者の皆さんにお礼を述べました。



◆開催にあたっては上尾国際交流協会の後援を頂きました!

## ゆうばり映画祭に協会張加貝顧問が出品

### 雲南での国際映画展の開催も

「ゆうばり国際ファンタスティック映画祭」 同映画祭のプログラミング・ディレクターを務める塩田時敏氏とも張監督を通じてゆうばりを主会場に開催されました。協会 知り合いで、雲南省での映画展開催の可顧問の張加貝監督作品の「ミッドナイト・ビーティング／午夜心跳」がコンペティション部門の作品として26日に上映されるのに合わせ、映画作製に協力した初鹿野理事長と林則幸さんが会場に駆けつけました。 初鹿野理事長を中心張加貝監督(左)と塩田氏▶



## 平田特命支部長が行く一昆明滞在顛末記②



▲「40数年ぶりの学生証はどこなく落しかった」とつい本音が

学生証が交付された。5限目と6限目の間の休憩中に杜丹先生から受け取った。先生曰く、「映画館や書店さん、デパートで学割が使えるから活用しなさい」と。モスグリーンの表紙に「雲南師範大学学生証」と箔押しされた小冊子だが中を開いてみると、

「学号100500266」「姓名平田栄一」と書かれていた。私は正真正銘の雲南師範大学学生である。ただし、有効期限は2011年1月31日までだが。

私が所属するクラスは「漢語入門B班」といって、北京語の基礎の基礎から学習するクラスである。「入門」課程の基本は、ピンインと四声(中国語の発音)と簡体字を覚えることにある。日本人私には簡体字の意味はまあまあ理解できるのだが、簡体字のピンインがわからない。彼らは、この「入門班」をできるだけ早く卒業して「初級班」「中級班」「上級班」を経てその後、専門の学習コースへ進まなくてはならない。それが本来の目的だから。彼らにとってここは通過点なのだ。私と席を隣にする

ベトナムのディエン君は毎夜2時、3時まで簡体字をノートに書き写して復習しているそうだ。気楽な私などとは気合が違う。

授業は『漢語総合』『漢語口語』『漢語問答』の3教科を木曜日から木曜日までの週4日間で合計18時間履修しなければならない。授業は中国語で行われるが、時に応じて英語で補足してくれる。授業内容はそれほど難しくはない。だが、どの授業も次々に指名されて無理矢理に発音させられ、正しい発音ができるまで氣を抜く隙がない。途中に10分間の休憩をはさんで90分間、それはそれはみっちり行われる。90分間はあつという間である。

## 東日本大震災救援募金受付中！

認定特定非営利活動法人日本雲南聯誼協会は、3月11日に発生した東日本太平洋沖大地震の被災者救援のため、支援金を募ります。必ず「東北関東大震災救援」あるいは「シンサイ」と明記し、現金書留かゆうちょ銀行振替口座、銀行口座へお振込ください。衣類や食料等の物資は受け付けておりません。お預かりした支援金は、被災地の子どもたちや小学校のために使われるよう初鹿野理事長が協会を代表し、責任を持って現地までお届けします。

### 送金方法

現金書留は、〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町21-13 1階「東日本大震災救援」係へ。  
ゆうちょ銀行振替口座00100-8-610935(通信・ご依頼人の欄に住所と氏名をご記入ください)、  
三菱東京UFJ銀行目黒駅前支店普通口座1300380、口座名義はいずれも特定非営利活動法人日本雲南聯誼協会(トクテイヒエイリカツウホウジンニッポンウンナンレンギキョウカイ)です。

未曾有の大震災から1ヶ月が経過したものので、いまだ続く大きな余震に地震の規模の大きさを改めて思い知らされる毎日です。それに加え、福島原発事故の収束のメドが見えない不安が、桜咲く春をよそに気持ちを暗くさせてしまいます。そんななか昆明で、語学校の主催による東日本大震災の「追悼式」が催されたと、ある情報サイトが紹介していました。参加者は1人あたり250元強を募りましたが、現地の所得水準からすれば日本人の感覚で2万5000円もの大金です。千羽鶴と手紙も添えられ、約1時間にわたる追悼式は終了したということです。メディアにも報道されることの無かった尊い美しい善意に、思わず目頭が熱くなりました。多くの無名の市民の方々が日本を応援してくださっています、「心のぎずな」本当にありがとうございます。

### 鏡頭裏的世界 -レンズの中の世界-



#### No.7 小さな職人芸

子どもたちが着ている民族衣装ってとても素敵ですよね。どこで買ってるのかなと思ったら全て手作り！この靴の中敷やハンカチは子どもたちの手作りと聞いて2度びっくり！(撮影：林則幸2009年6月楚雄イ族自治州武定県插甸鄉老木壩村)

皆様のご投稿をお待ちしております！

【データ】yunnan@jyfa.org  
【郵送】〒162-0846 新宿区市谷左内町21-13 1階  
日本雲南聯誼協会「レンズの中の世界」係

### 第11回定期総会

時間：2011年6月19日(日) 10:00～  
場所：八王子市学園都市センター

### 「25の小さな夢基金」卒業式参列の旅

時間：6月下旬～7月上旬 雲南省昆明市  
※7月1日卒業式、翌2日に卒業生の同窓会開催は決定しております。詳細は別途ご案内をご覧ください。

### 協会写真展 in さいたま(タイトル未定)

時間：2011年7月20日(日)～25日(月)  
場所：さいたま市民活動サポートセンター

### 協会写真展 in JICA(タイトル未定)

時間：2011年8月23日(月)～9月4日(日)  
場所：東京広尾JICA地球ひろば

### 事務局も節電中！

未曾有の大震災発生から1ヶ月余り、少しずつ日常の生活に戻られた方も多いと思います。地震発生直後から、協会本部事務局のある技術評論社ビルでは、全社をあげての節電に取り組んでいますが、事務局でも、灯りを半分にし、空調を切って、ほんの少しではありますか復興のお手伝いをしています。皆さんと一緒に、できることからがんばっていきましょう！



▲地震直後はご寄付の半纏で寒さをしのぎました！

### 雲南で起きた地震について

3月10日23時30分の現地報道によれば、10日現地時間午後0時58分頃、雲南省西部徳宏タイ族チンボー族自治州盈江県(北緯24.7度/東経97.9度)を中心に、M5.8の地震が発生、その後2度M4.7とM4.5の大きな余震がありました。死者25名、負傷者250名、3147棟の家屋が倒壊し、5万棟近くの家屋が損傷を被ったということです。盈江県では直近2ヶ月間のうち、マグニチュード5以下の地震が1200回も発生していました。徳宏州には協会が援助した小学校はありませんが、協会「25の小さな夢基金」には同州出身の支援生徒もおり、現地状況について雲南支部が情報収集にあたっています。

その後、25日にマンマーで起きたM6.8地震でも雲南に被害が出たり、翌日の現地報道によれば、シーサンパンナ、臨滄市、プーアル市の一部地域で6560人が被災、家屋6600棟が損壊しました。協会支援校が12つある臨滄市の被害は重大ではなく、小学校の無事も確認されています。